第１章

キャリア教育について理解しましょう

〈 理論編 〉

■　キャリア教育についての基本的な考え方を理解する

この章では、キャリア教育の基本的な考え方をまとめました。

キャリア教育とは何か、小学校ではどのようなことが重要なのかなどの疑問があるとき、あるいは、教職員同士の共通理解を図りたいというときの参考にしてください。

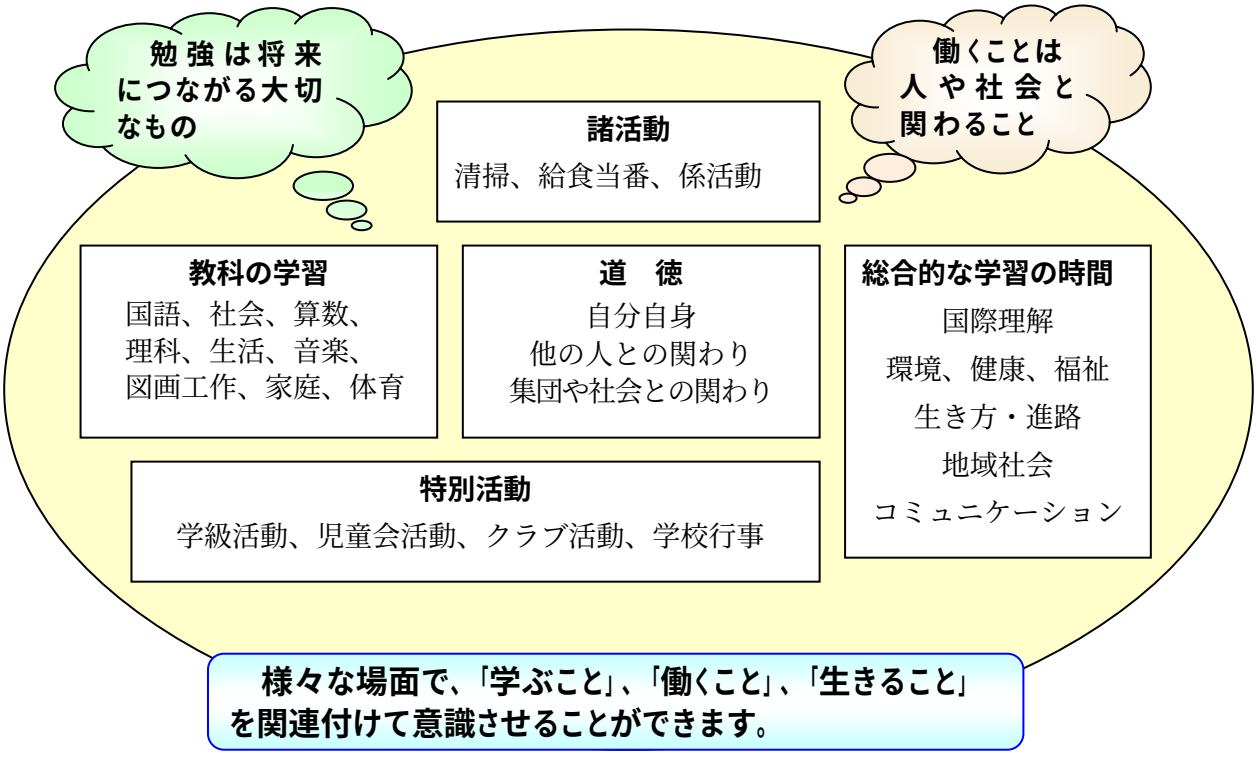
Q1　キャリア教育とはどのようなものですか？

A1　児童生徒一人一人の勤労観や職業観を育て、主体的に選択・決定する能力・態度を身に付けていこうとするものです。

■　学校の教育活動全体がキャリア教育の範囲です。

■　小学校段階から、勤労観や職業観の形成の基礎となる具体的な意欲や態度、能力を育成しようとする視点をもつことが重視されます。

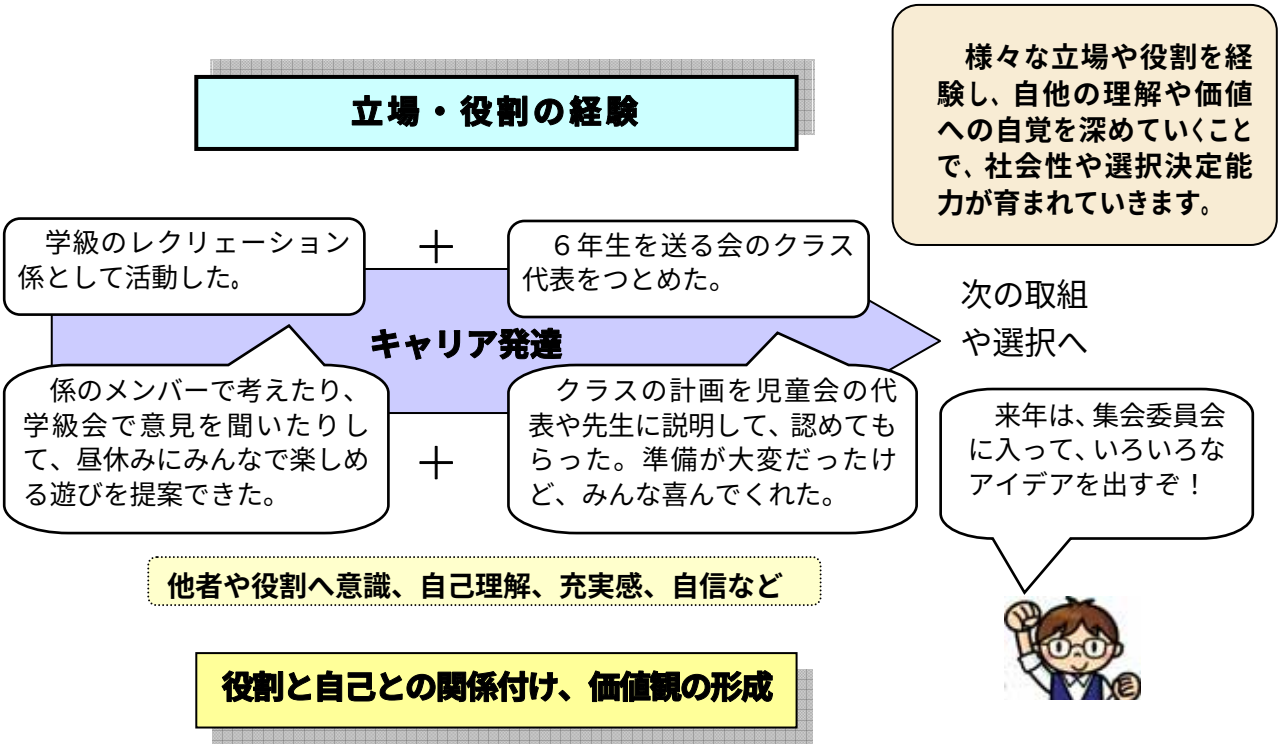
日々の教育活動には、児童生徒に、「学ぶこと」、「働くこと」、「生きること」を関連付けて意識させる場面がたくさんあります。学級の係活動や学校の児童会などの活動にどのようにかかわるか、あるいは、授業にどのように臨むかといったことまで、それらの意義をキャリア教育の視点で再確認することが大切です。



解説１　「キャリア」のとらえ方

「キャリア」とは、個々人がこれまでに累積してきた経験やものの見方、考え方などの全体を指し、学習や経験を重ねることで形成されるものです。勤労観や職業観の基盤となるものであり、自分の生き方や進路を決定しようとするときのよりどころとなる大切なものです。

イメージ図　キャリア発達のプロセス



◆ キャリア教育はキャリア発達を促すもの ◆

キャリアは、人が成長し、様々な経験を重ねる中で変化していくものです。望ましい勤労観や職業観を育成するためには、集団の中で他者とかかわりながら、一人一人にふさわしいキャリアが形成されていくことが必要です。

小学校段階は、学ぶ基礎をつくる時期であるとともに、キャリア発達の基盤づくりの大切な時期です。

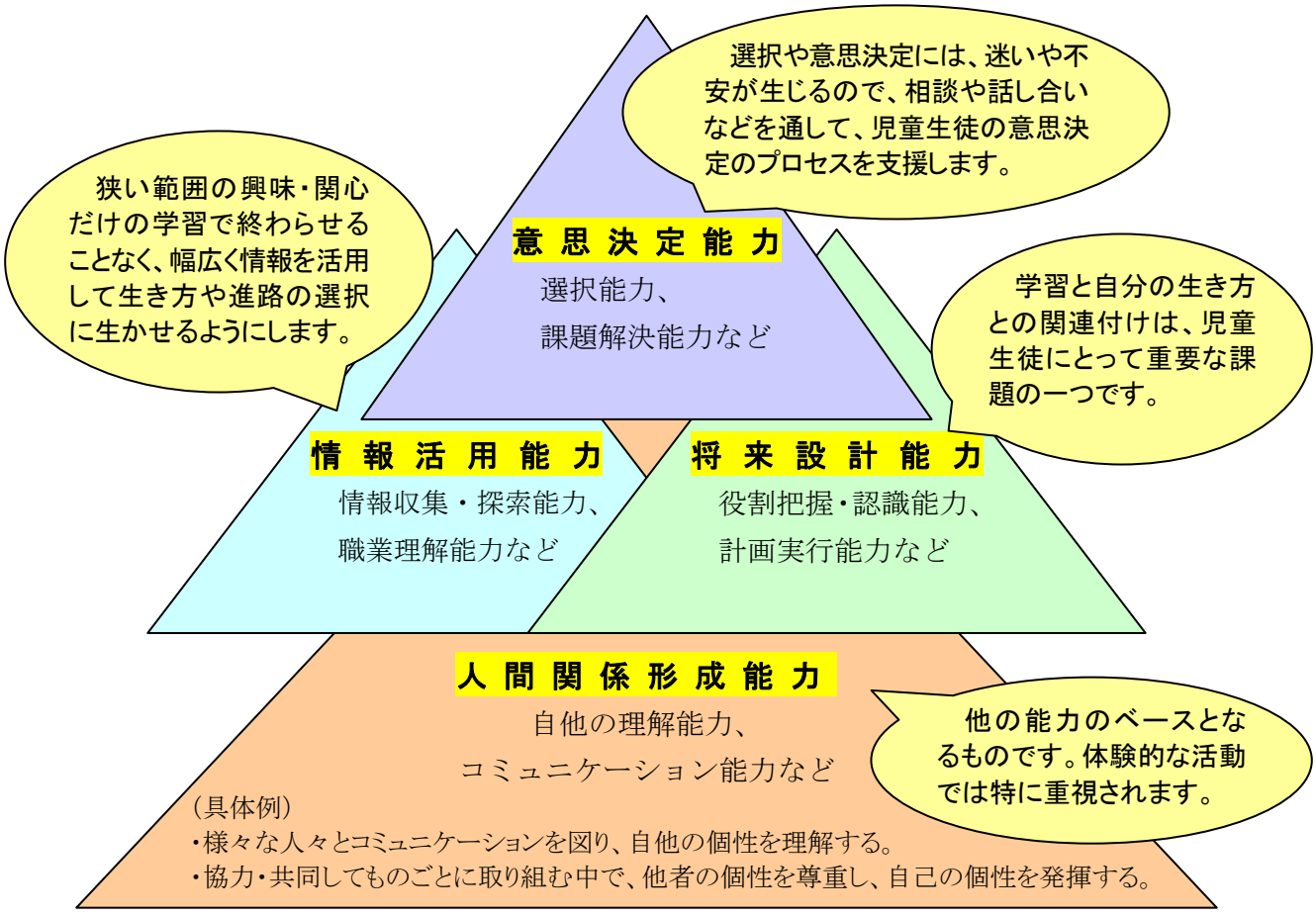
Q2　キャリア教育で育成を目指す能力や態度にはどのようなものがありますか？

A2　**自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力・態度として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」等があります。**

■ これらの能力を目標や評価の観点として用いることができます。

■ 育成を目指す能力や態度については、先行研究などの例も参考にしつつ、自校の児童の実態を踏まえて具体化することが重要です。

イメージ図　キャリア教育で育成を目指す能力や態度



※　国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（平成 14 年 11 月）」を基に作成。具体的な能力・態度の例はp.74、75 に掲載。

解説２　育成を目指す能力や態度のとらえ方

キャリア教育の実践では、活動のねらいを明確にするためにいくつかの能力に力点を置いて指導する必要があります。ただし、人の能力は複合的なものであり、諸能力は相互に関連しながら発達するという考え方に立って、指導・支援に当たることが大切です。

体験活動（働く人へのインタビュー）を通して、人間関係形成能力に自信をもつとともに、情報活用能力も高めている例

働く人や仕事への興味･関心

「町たんけん」で働く人にインタビュー

体験活動を通して得られたこと

お菓子屋さんのおじさんに話を聞きたい。人気のあるお菓子や作り方を知りたいなあ。

楽しく話せて、お店の人と親しくなった。うなずいたり、つなげて質問したりするといろいろ話してくれて、お店は１００年くらい続いていることや、お菓子の作り方も教えてもらえた。

大人の人と話すのは、はずかしいな。うまく質問できないかもしれないので、聞きたいことをノートに書いてもっていこう。

いろいろな人に話を聞いたりしゃべったりして、「こんにちは」「さようなら」が言えるようになった。これからも、伝えたいことは、はずかしがらずにはっきり言うようにしたい。

一人一人の発達の特徴を理解して、個別の相談に応じたり、アドバイスしたりします。

主たる目標が情報活用能力であったとしても、ベースとなる人間関係形成能力に目を向けさせることも大切です。

◆ 人間関係形成能力は様々な能力や態度の育成に関わる ◆

コミュニケーション能力をはじめ、よりよい人間関係を築くための資質や能力は、社会人あるいは職業人として生きていくために基盤となります。小さなことでもかまいませんから、様々な活動を通して、人間関係を築くことに自信をもてるようにしていくことが大切です。

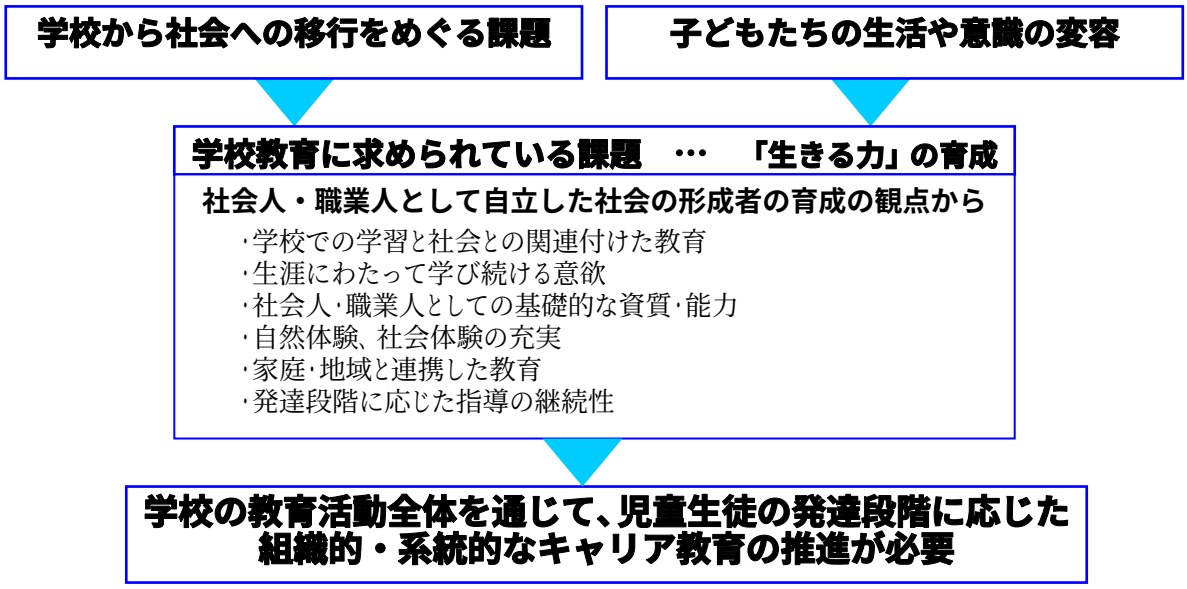
また、あいさつや日常生活における基本的なマナーを指導する際には、相手や場に応じた振る舞いや、自分らしさを表現させることも重要です。

Q3　なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのですか?

A３　**働くことに対する若者の意識や行動の変化、人間関係を築く力なども含め、子どもたちの成長・発達をめぐっては、精神的・社会的自立が遅れる傾向にあることが指摘されています。**

このような問題に対して、中学校や高等学校における進路指導の充実にとどまらず、将来の自立への支援という観点から、小・中・高の連携を意識した体系的なキャリア教育の取組が求められています。

○キャリア教育の推進が求められる背景



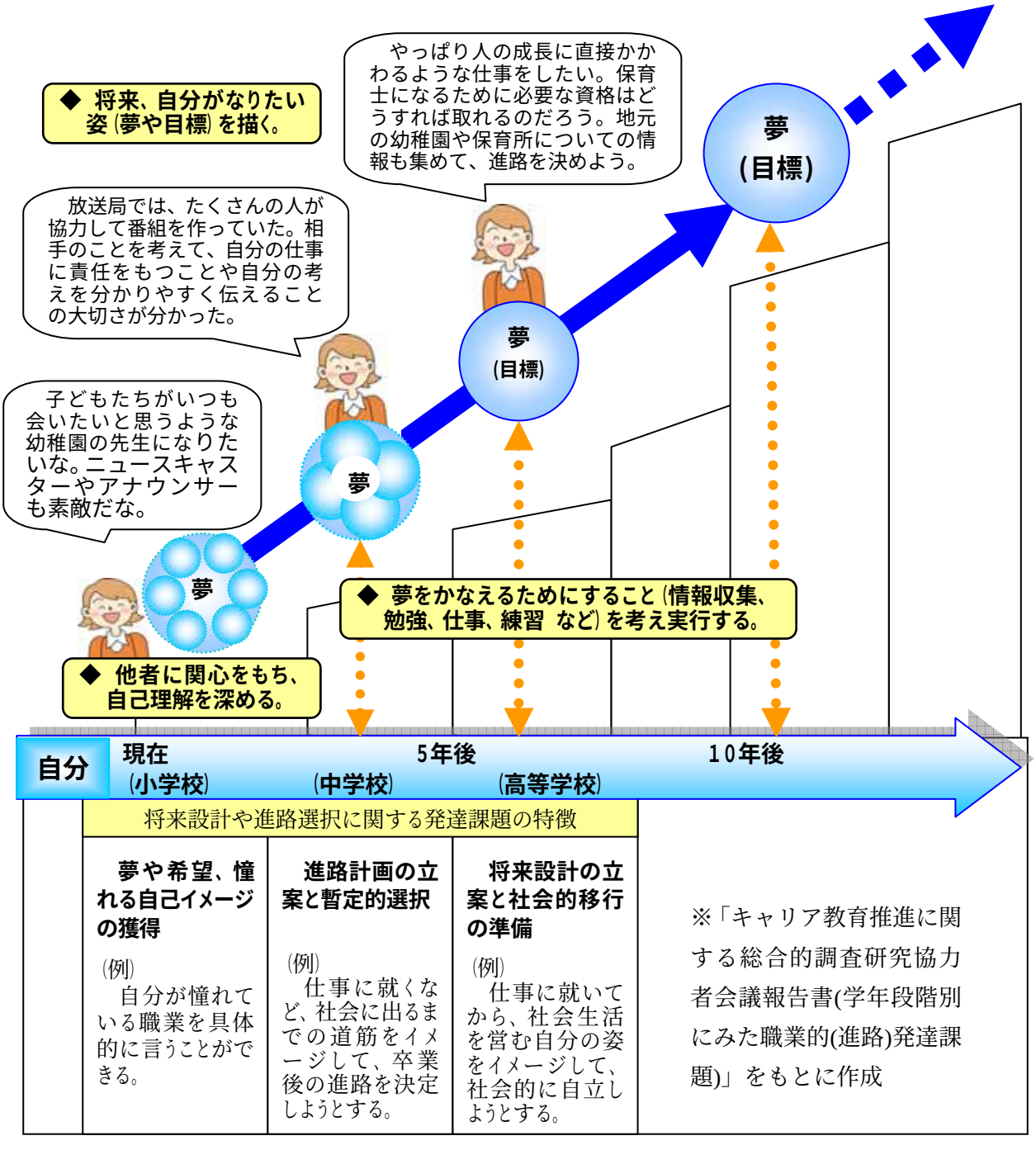
◆　自立性や社会性の基礎となる能力・態度を育成する　◆

具体的な職業にかかわる知識やノウハウは、その職業を目指してからでも身に付けられます。しかし、どんな職業についても必要とされる能力、例えば、時間や約束を守る、自分に与えられた責任を果たす、自分の意見を主体的に述べる、交渉する際に他の人ときちんとコミュニケーションがとれるなどの、基本的な生活能力は、自立性や社会性の基礎として小学校段階からきちんと積み上げていく必要があります。

解説３　児童生徒の発達段階に応じた課題

個々の児童生徒の成長・発達を効果的に支援するためには、児童生徒の発達段階やそれぞれの段階で身に付けさせたい能力・態度を意識して指導に当たる必要があります。生き方や進路を主体的に選択できる力は、段階的に、丁寧に積み上げていくことによって育まれていきます。

イメージ図　　発達段階による課題と自己理解



将来設計や進路選択に関する発達課題の特徴

夢や希望、憧れる自己イメージの獲得	進路計画の立案と暫定的選択	将来設計の立案と社会的移行の準備
（例） 自分が憧れている職業を具体的に言うことができる。	（例） 仕事に就くなど、社会に出るまでの道筋をイメージして、卒業後の進路を決定しようとする。	（例） 仕事に就いてから、社会生活を営む自分の姿をイメージして、社会的に自立しようとする。

※「キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(学年段階別にみた職業的(進路)発達課題)」をもとに作成

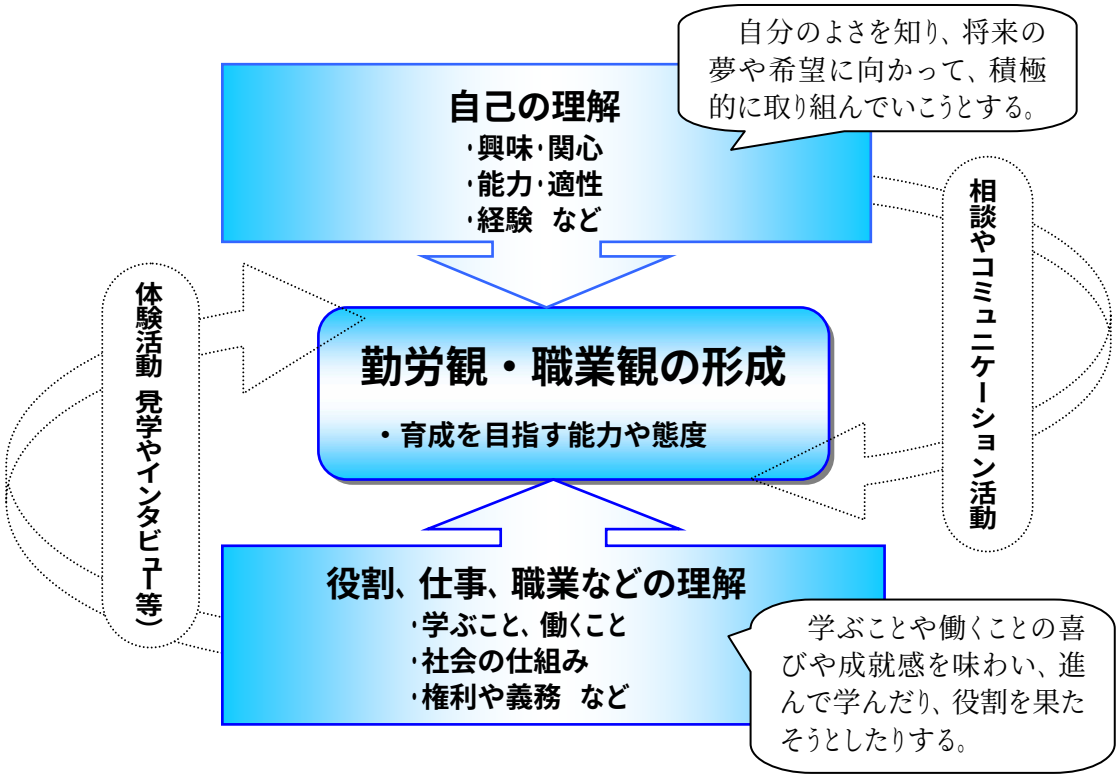
Q4　小学校のキャリア教育では、どのようなことを重視しているのですか?

A４　**小学校では、自立意欲や社会性を育成するための基盤づくりの段階と位置付け、次のことを主眼において取り組みます。**

■ 家庭、学校、地域での諸活動の中で役割を果たすことなどを通して、自分のよさや得意分野に気付き、日々の生活の中でそれを生かし、さらに伸ばそうとする意欲や態度をもつことができるようにします。

■ 身の回りの働く人の姿などから、自分たちの生活との関係を考え、働くことについての基礎的な理解を得ることができるようにします。

○キャリア教育に関する学習内容



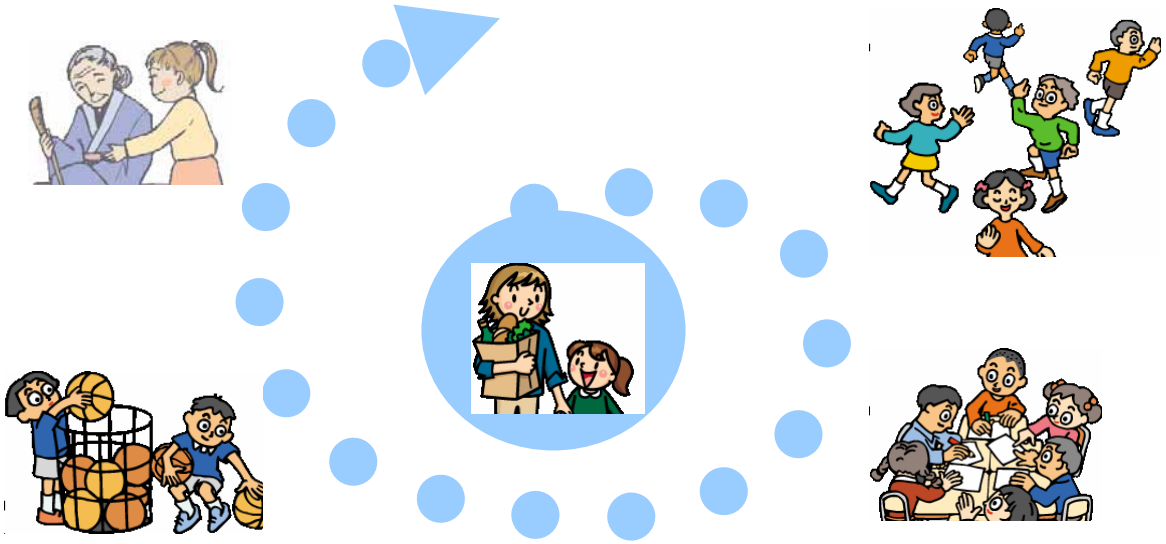
◆「キャリア教育」＝「職業や勤労に関する授業や体験的活動」ではない◆

勤労観・職業観の育成は、キャリア教育の重要なねらいですが、働くことについては、家庭、学校、地域社会等における様々な立場や役割の経験も含む広い意味としてとらえる必要があります。その上で、体験的な活動や相談等を通して、自己及び他者、身の回りの仕事や環境等への積極的な関心を高め、自己理解を深めていくようにすることが大切です。

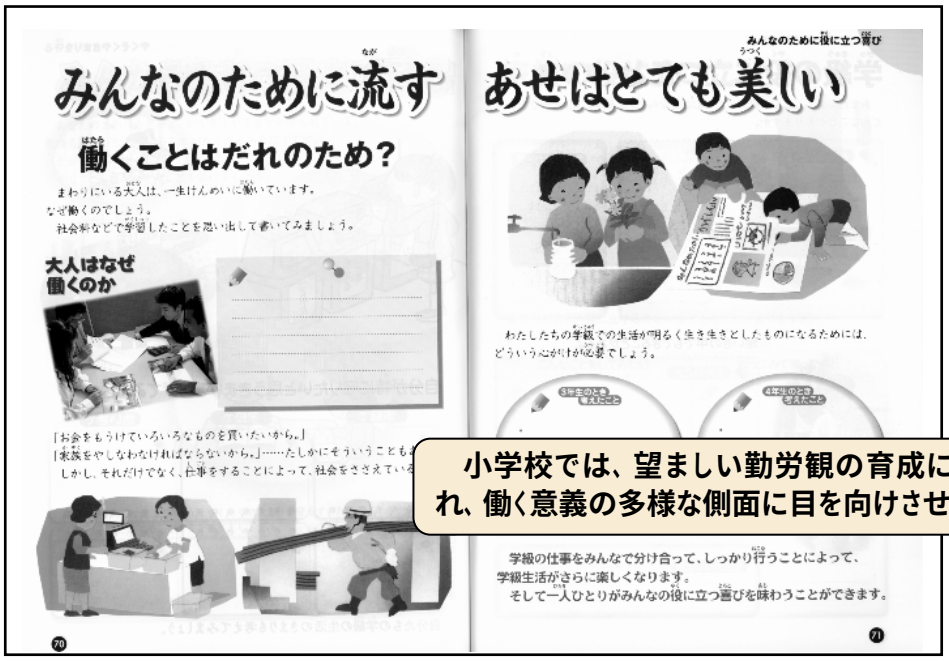
解説4　児童生徒の発達と勤労観及び職業観のとらえ方

小学校段階のキャリア教育では、日常生活での様々な役割についての理解や役割を果たそうとする態度など、「勤労観」の育成に力点を置き、その上で幅広く職業の世界にも目を向けられるようにしていきます。

イメージ図　　役割の経験による人間関係の広がり



家での手伝い、学校における係活動や当番活動、清掃、遊び、地域における活動など、様々な役割を経験する中で、他者との人間関係を築き、活動の場を広げていくことができます。



小学校では、望ましい勤労観の育成に力を入れ、働く意義の多様な側面に目を向けさせます。

「心のノート（中学年用）」

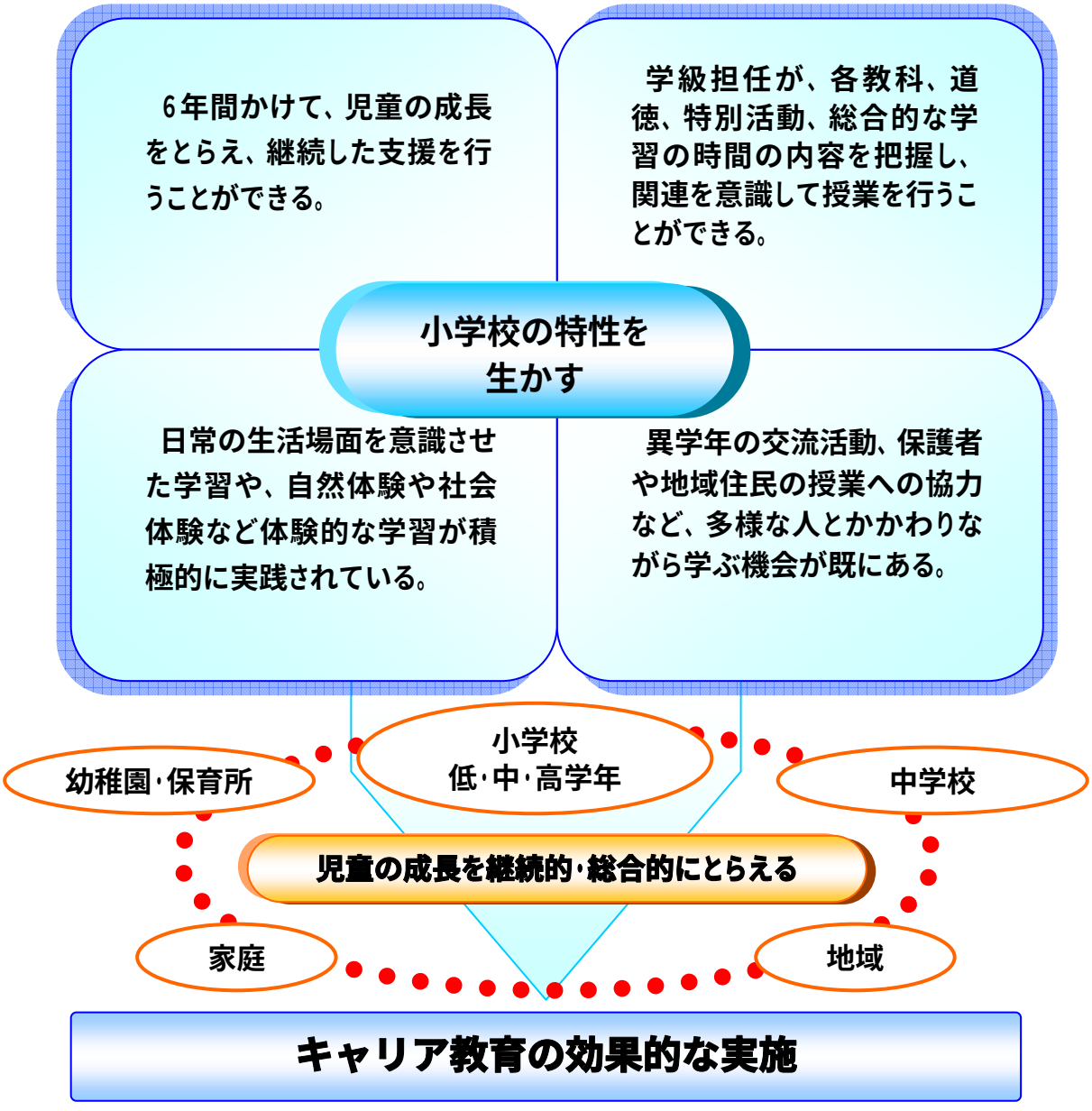
Q5　小学校でキャリア教育を進める際には、どのようなことに留意するとよいのですか？

A５

児童一人一人の理解に努め、低・中・高学年の連続した６年間の育ちを見通して指導に当たるようにします。

■　６年間を通して児童の成長の過程を見つめ、一人一人の理解に努めながら、発達を支援していくことが重要です。

■　キャリア教育について保護者の理解を得ること、幼稚園や保育所、中学校との連携、地域住民とのつながりを生かした取り組みの工夫などが望まれます。



解説5　連続した6年間の育ちを見据えた児童理解と継続的な支援

小学校６年間は、児童の成長が著しく、社会的自立の基盤を形成する重要な時期です。児童一人一人が、発達段階に応じて、社会性や自立に必要な能力・態度を身に付けていくことができるよう、学年間の引継ぎや教師間のコミュニケーションを密にして指導に当たることが望まれます。キャリア教育は、教育活動全体を通して継続的に取り組んでいくことが大切です。

中学校との連携

社会への関心、他者とかかわる意欲・態度・能力の育成

【高学年】

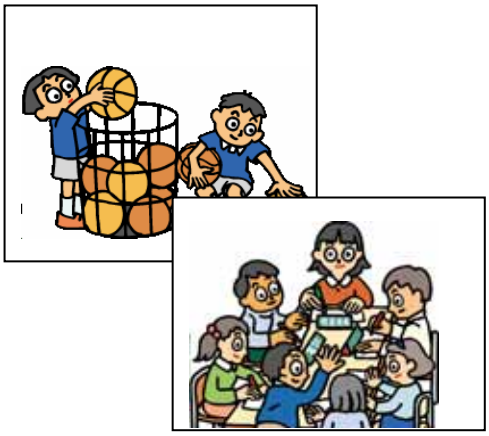
- **自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。**
- **集団の中で自己を生かす。**
- **社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。**

小学校の最高学年段階として自覚ある行動が求められます。将来の夢や目標をもち主体的に行動できるよう役割の経験や振り返りを充実させます。

【中学年】

- **友達と協力して活動する中でかかわりを深める。**
- **自分の持ち味を発揮し、役割を自覚する。**

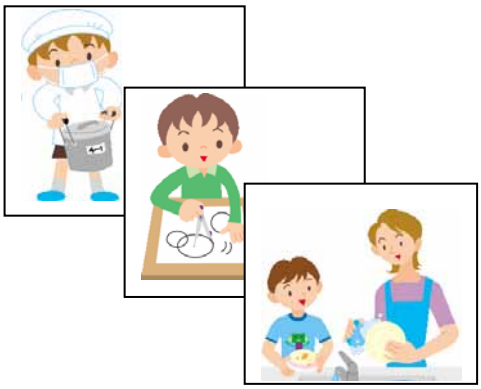
行動範囲や友達関係が広がる時期なので、特に自主性や協力し助け合う態度の育成に力を入れます。



【低学年】

- **小学校生活に適応する。**
- **身の回りの事象への関心を高める。**
- **自分の好きなことを見つけてのびのびと活動する。**

学習や生活に必要な習慣や技能を身に付けられるよう、家庭や幼稚園などとの連携を大切にしながら指導します。



幼稚園、保育所との連携

Q6　児童へのかかわり方や支援については、どのようなことに留意するとよいのですか？

A6　**児童が生活や学習に取り組む中で、自己のよさや可能性に気付き、それぞれの夢や目標の実現に向けて努力できるように指導や援助を継続していくことが重要です。**

各教科等の学習や体験的活動、日常生活での経験の積み重ねが、個々の児童の将来につながり役に立つということを、教職員一人一人がこれまで以上に意識して教育活動に取り組み、児童にかかわっていくようにします。

また、そのような意識で、児童の実態をとらえ、教育活動の内容や指導について改めて見直していくことが大切です。

◆　評価の工夫　－自分のよさや可能性への気付きを促す－　◆

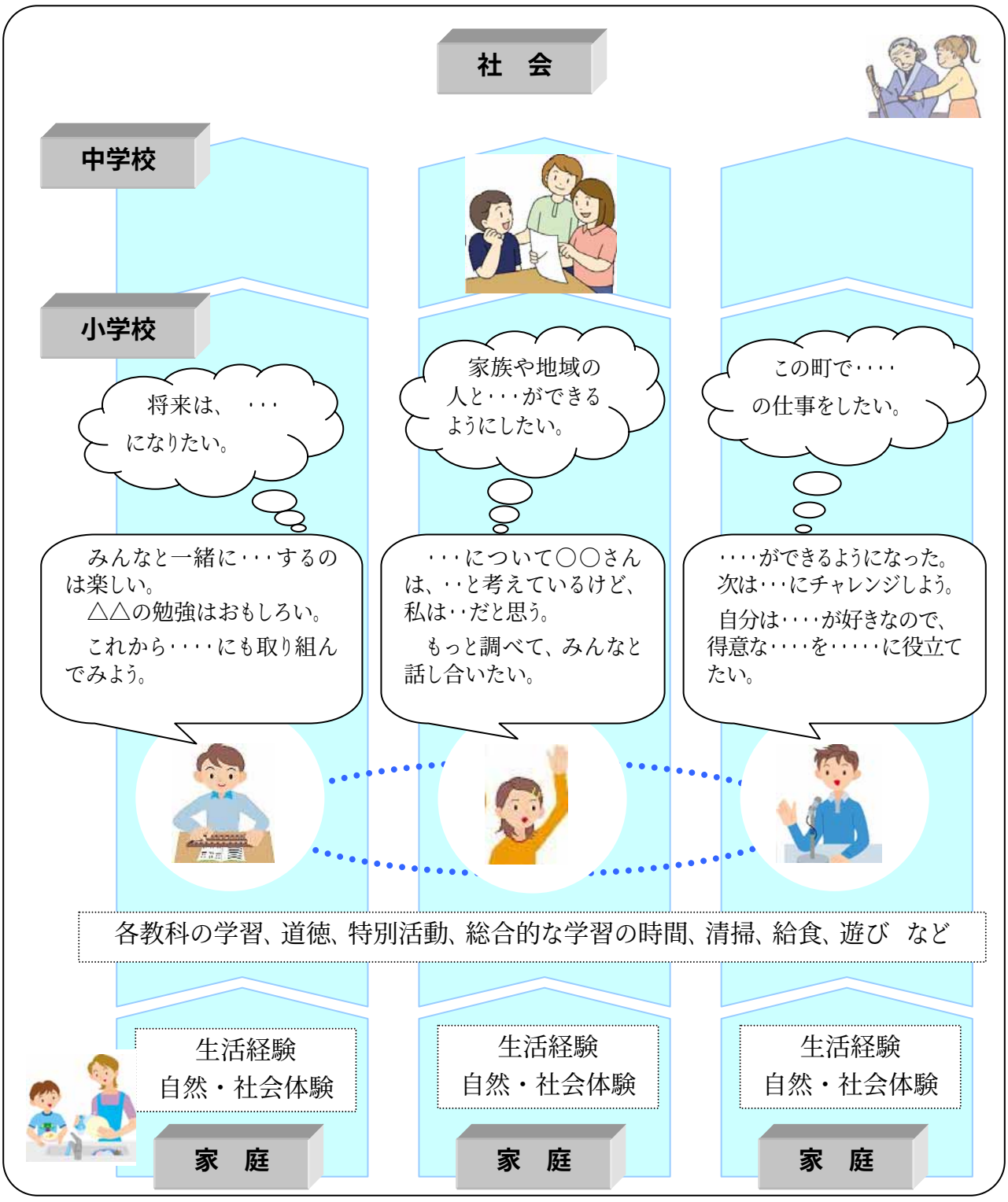
様々な生き方があることを知ったり、自分のよさが人との出会いの中で引き出されていくことを実感したりして、「自分は～ができた」「こんなこともできそうだ」と自分のよさや可能性に目を向け、自ら選択決定する力を高めていけるよう、人とかかわる場の設定や自己への気付きを促す評価を工夫しましょう。

自分が受容されているという安心感や、理解してくれると思える相手への信頼感は、日常生活での励ましや言葉かけによって確かなものになっていきます。どのような能力が身に付いたか、あるいは高まったかということだけではなく、「現時点での自分の力をどれだけ発揮できたか」ということも大事にして、振り返りをさせたり、言葉かけをしたりしましょう。

自己の成長を継続的にとらえる工夫として、「心のノート」やポートフォリオを活用して、記録を累積していくことも有効です。自分のものの見方や考え方が学習や体験の過程でどのように変わってきたのかを自覚できるようにすることが重要です。

解説6　学習や生活経験を通して、学ぶことや役割を果たす喜びを味わう

小学校は生涯学習の入門期であることを考え、授業で学習する内容について実感を伴って理解できるように工夫するとともに、「学ぶことの楽しさや喜び」、「社会生活における必要性や有用性」などを感じることができるように導くことが大切です。さらに、学習や生活の中で、自分の役割を果たしたり、友達と協力しながら問題を解決したりする経験を重ねていくことで、社会性や自立への基礎が養われていきます。



将来の実生活を視野に入れて

学習や生活の基盤づくりを支援しましょう。